

PRAEVIDENTIA DAILY (1月23日)

昨日までの世界：ポンド高、カナダドル安トレンド強化

昨日は経済指標が予想を上回ったポンドと豪ドルが大きく上昇した一方、中銀が先行きのインフレ予想を引下げ利下げ期待が高まったカナダドルが急落した。その他通貨は対ドルでほぼ横ばいに留まっている。ポンドは、英11月失業率が7.1%と市場予想の7.3%を大きく下回り、低金利維持の条件としてフォワードガイダンスで言及されている7.0%に大きく近づいたことから、将来的な利上げタイミングは早まるとの見方が強まり、対ドルで一時1.6587ドルと年初の高値(1月2日の1.6603ドル)に迫る水準となったほか、対円でも173.31円でこちらも2日の高値である174.85円が次のターゲットとなり、ユーロ/ポンドは一時0.8168ポンドと昨年1月以来の安値(ポンド高値)へ急落している。フォワードガイダンス変更や今後の金融政策スタンスを巡り、2月6日の次回BoE金融政策委員会および2月12日発表のBoE四半期インフレ報告への注目度が更に高まる。

豪ドルは、豪4QCPIが総じて市場予想を大きく上回り、基調インフレ率(刈込平均と加重中央値の平均をとったもの)が市場予想の+2.3%に対し+2.6%となったことから、一部に残っていた追加利下げ期待を後退させるかたちで買われ、対米ドルで0.88ドル丁度近辺から一時0.8888ドルへ上昇したが、NY時間引けにかけては小反落しており、下落基調自体は大きく変化していない。

他方、カナダドルは、カナダ中銀が金融政策決定会合で市場予想通り政策金利を1.00%に据え置き、その後のPoloz総裁記者会見でも政策スタンスは中立の範囲内で変わらない、と述べたものの、声明文の中で先行きのインフレ見通しが引下げられ、総裁が(低)インフレについて前回よりも懸念していると述べ、目先追加緩和はないにしても今後低金利がより長期間継続するとの期待が強まったこと、またPoloz総裁が記者会見でカナダドル安の経済へのメリットを強調したことも、カナダドル売りに繋がり、米ドル/カナダドル相場は一時1.1092ドルへ急上昇(カナダドル急落)した。

ドル/円相場は概ね104円台前半で推移したが、米長期債利回りの持ち直しもあってどちらかという強含みで推移した。日銀決定会合では市場予想通り政策変更はなかったが、一部に追加緩和期待があったためか発表後に下落し一時103.97円へ下落したが、その後すぐに104円台を回復した。昨年10月の展望レポートにおける経済見通しが四半期毎の見直し時期を迎え、2014年度のGDP成長率予想が前回の+1.5%から+1.4%へ小幅下方修正されたが、誤差の範囲内で金融政策見通しに大きく影響を与える修正とは考えにくい。

南アでは、12月CPIが前年比5.4%と、前月の5.3%からは上昇したものの市場予想の5.6%を下回ったことから、発表後にランドが上昇する局面もみられた。プラチナ鉱山での賃金交渉決着も短期的にはランドにとり支援材料といえるが、賃上げ率が9.1%と将来のインフレ圧力に繋がる面があるため好材料とは受け止められなかった面もある。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	+0.04	+0.02	-0.01	+0.05	+0.04	-0.01	+0.1	+0.2	+1.8	+1.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.1	-0.01	+0.01	+0.02	-0.02	+0.02	+0.04	-0.1	+0.1	+1.3	-0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.6	+0.02	+0.04	+0.02	+0.01	+0.05	+0.04	-0.1	+0.1		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.5	+0.10	+0.12	+0.02	+0.04	+0.08	+0.04	+0.1	+2.2	+0.8	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.1	-0.02	+0.00	+0.02	-0.02	+0.02	+0.04	+0.1	+2.2	+0.8	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+1.1	+0.05	+0.02	-0.02	+0.05	+0.04	-0.02	+0.1	+1.8	+0.8	

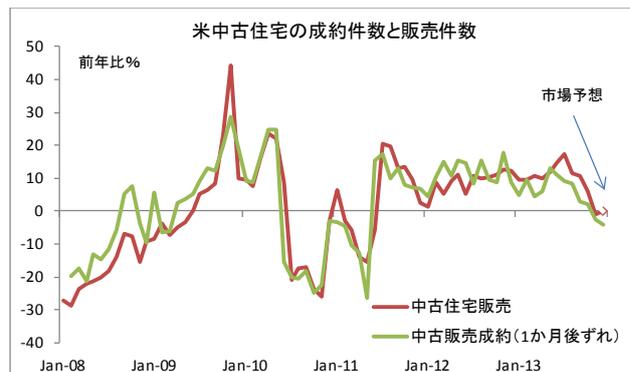
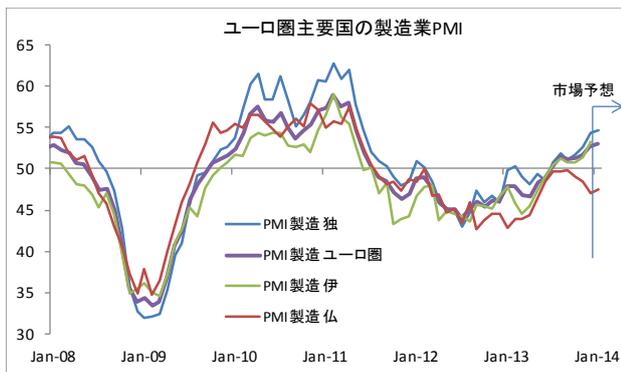
(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

## きょうの高慢な偏見：フランスは復活するか

本日の相場材料としては、①中国 1 月 HSBC 製造業 PMI 速報値（10：45、前月 50.5、市場予想 50.3）、②ユーロ圏 1 月総合 PMI（18：00、前月 52.1、市場予想 52.5）、③Fisher ダラス連銀総裁発言（18：00、タカ派、投票権あり）、④米新規失業保険申請件数（22：30、前週 32.6 万件、市場予想 33.0 万件）、⑤カナダ 11 月小売売上高（22：30、除く自動車：前月+0.4%、市場予想+0.3%）、⑥米 12 月中古住宅販売件数（0：00、前月 490 万件、市場予想：493 万件）、⑦Visco イタリア中銀総裁発言（3：00、ハト派）、などが予定されている。

相対的に注目度が高いのはユーロ圏 PMI で、今回はこれまでユーロ圏全体の足を引っ張っていたフランス分も含め全般的に小幅改善が予想されており、目先の利下げ期待の後退からユーロ下支え要因となる（下図を参照）。但し、特にユーロ圏分に先行して 17：00 に発表されるフランス分が市場予想を下回り更なる悪化を示すようだと、年初来のユーロ/ドルの下落基調も相俟って、ユーロの下落が大きくなるとみられる。また、昨日スイスダボス会議で Weber 元独連銀総裁・現 UBS 会長が、今年 10 月までに行われるユーロ圏銀行のストレステストにつき、不合格行が複数出ること、市場がリスクを無視していること、などを指摘しており、当社のストレステスト懸念を受けたユーロ圏銀行の相対パフォーマンス悪化とユーロ安のシナリオと整合的な発言が聞かれている。

米国では今週唯一の相対的に重要な経済指標である中古住宅販売件数が発表される。市場予想派 493 万件と前月からの若干の増加が予想されているが、連動性が高い中古住宅販売成約件数の低下継続を考慮すると、やや下振れリスクがあるとみられる（下図を参照）。ドル/円は引き続き、強い手掛かり材料難の中で、104 円前半での横ばい圏内での推移が続き、レンジ観が強まるとみられる。



### ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社

金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号

一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641